

経済建設生活常任委員会所管事務調査（行政視察）報告書

経済建設生活常任委員長 八木 伸雄

11月6日から7日にかけて当常任委員会で実施した山梨県南アルプス市及び山梨県北杜市での所管事務調査について報告いたします。

初日に視察した南アルプス市は、山梨県の最西端、南アルプス山麓に位置する人口7万3,000人、面積は約264平方キロメートルの南アルプスの主峰北岳を頂点とした東西に細長い地形で、美しい自然に囲まれた都市です。

盆地特有の内陸性気候や水はけの良い肥沃な大地は、サクランボ、桃、ぶどうなどの果樹栽培に適し、たくさんのフルーツが実る果樹園は、この地域を代表する景色となっています。

今回の調査項目は、宿泊施設である「湧泉の里 樹園」の「指定管理者による管理運営について」と「温泉利用プログラムについて」であります。

初めに、樹園支配人より宿泊施設の概要説明を受けた後、事前に当常任委員会を送付した質問事項に対する回答及び施設内を見学する形で調査を進めました。

この樹園は、昭和60年度に建築され、すでに築28年が経過しており、市営の温泉施設では数少ない宿泊棟を備えた施設であります。南アルプス市が指定管理者を導入した経過として、民間事業者の有するノウハウを広く取り入れ、住民サービスの向上と行政コストの縮減を図る目的で、平成18年度から導入しています。

宿泊利用者は、高齢者が多く、ほとんどが温泉を目当てに宿泊し、客層は、グループ・団体客が約6割、家族連れや個人での利用が残りの約4割であるとのことでした。年齢は、小学生のスポーツ合宿から高齢者のグループでの利用とさまざまであり、宿泊客のほとんどは、東京、神奈川、静岡などの近隣都県で、まれに北海道や九州からの利用があると説明がありました。

また、宿泊日数は、合宿では2泊から3泊が多く、個人の宿泊客は1泊の利用が多いとのことでした。

風呂にサウナや露天風呂があれば、もう少し集客数を増やせるのではないかと。また、部屋ごとにトイレと洗面台を整備し、和室だけではなく、ベッドのある洋室があればという宿泊施設側の希望もありました。

静かな環境の中、源泉かけ流しの天然温泉、研修室、宿泊室、食堂などの施設のほか、屋外にはテニスコート・バーベキュー施設もあり、家族連れやスポーツ・文化活動の合宿、企業の研修等にも適していると感じました。

説明を受け、委員から、スポーツ合宿の種目、誘客の宣伝方法や合宿誘致のPR方法など、質問する形で説明を受けました。温泉雑誌への掲載や、スポーツ関係者の紹介とリピーターが多く、合宿の種目は、野球・陸上・吹奏楽などで、車で20分の陸上競技場などの利便もあるとのことでした。

バスでは40人、50人の団体客があり、当宿泊施設は6部屋だけであるため、団体客は一番広い研修室に布団を敷き、寝泊することが多いとのことでした。

宿泊料金は、1泊2食付・大人が6,530円と低価格で、市内の方と市外の方では同じである。日帰り入浴の場合は、利用料金が市内350円、市外が550円と区分しているとのことでした。

宿泊料金の設定基準は、指定管理者による運営のため、市の条例では上限に当たる金額が設定されており、その範囲内で指定管理者の裁量により料金が設定されているが、合併当時から宿泊料金を変更していないため、平成26年4月1日から入湯税を含めた宿泊料、個室と広間の休憩料、日帰り入浴料の上限を一部改正する予定であるとのことでした。

スポーツ合宿用の食事メニューは、ヤングメニューと言って、ご飯と味噌汁をおかわり自由に行っているため、リピーターが増えているとのことでした。なお、年間の指定管理料は幾らか。との質疑には、平成24年度が590万円、平成25年度が480万円であると文書による回答がありました。

同市には、合併前の温泉施設が各町にあり、合併後・維持管理はすべて指定管理になっており、宿泊施設があるところは樹園だけであるとのことでした。

きゅうこうさいまち

指定管理による経営で黒字の施設は、最も新しい旧甲西町にある「やまなみの湯」だけであるとのことでした。

源泉かけ流しであるが源泉が約37度であり、加温の経費が掛かるが、天然の炭酸泉は全国的にも希少で豊富な炭酸ガスを含む100%かけ流しの源泉が、当宿泊施設のセールスポイントでもある。との回答がありました。

従業員は、地元の方を約16人から17人雇用しているとのことでした。

質疑を通じて説明を受けた後、施設見学に移り、支配人より、食事のメニューは季節ごとに変更していることや、源泉かけ流しの低温の風呂と加音し高温の風呂の二つをもうけ、衛生上塩素を入れ管理している。夏休み期間中の土日は、バーベキュー場の利用は大学生などでいっぱいだそうです。

はった

樹園の隣には、平成8年に合併前の旧八田村が建設した高齢者福祉施設があり、指定管理者として社会福祉協議会が運営する「デイサービスゆうかり」が、温泉を利用した健康づくりプログラムについても説明を受けました。

委員から、普通の湯の場合と温泉を利用した場合では、効果の違いがあるのか。との質疑には、普通のお湯とは、体の温まり方が違い、血行の促進が図ることができる。また、曲がらなかった膝が曲がる。この歩行浴を行うとその日は痛みがないというような体の調子が良いという声はいただいている。との回答でした。

温泉を観光や研修の宿泊施設として利用するとともに、福祉施設としての利用も並行して行っている例として大いに参考になりました。

2日目は山梨県北杜市を訪ねました。

北杜市は、山梨県の最北端に位置する人口4万8,000人、面積は山梨県の総面積の13.5%を占め、合併により山梨県最大の面積を有する市となりました。全国有数の美しい山岳景観、日本一のミネラルウォーターの生産量、環境省の「名水百選」を3箇所、有する全国唯一の市であります。また、環境日本一を目指した、太陽光発電、小水力発電の導入などの積極的な取り組みが評価され、平成21年6月には経済産業省の「新エネ百選」にも選定されています。

午前の調査は、宿泊施設である「スパティオ小淵沢」の指定管理者による管理運営について実施しました。

当宿泊施設は、平成8年4月に行政と民間の出資による第三セクターとして設立した株式会社スパティオ小淵沢により、本施設の開業以来17カ年に亘り、当施設の目的である「食と健康」として、地域の農産物等の消費拡大、地産池消の推進、その地域で時期に収穫された食材を使用して調理することが健康の源であるという理念の中で「食と健康」をテーマとしている。

また、もう一つの目的として、「都市と農村の交流」ということで、観光振興、地域の活性化につなげるための取り組みを推進し、良好な管理運営に努めています。

当宿泊施設の隣には、道の駅小淵沢が設置され、立地条件は川根温泉に類似しているものと思われます。

初めに、スパティオ小淵沢の概要、設立までの事業経過、指定管理者である株式会社スパティオ小淵沢の会社概要、従業員172名の組織・業務委託の内容等の説明、また、株主総会に提出した事業報告書、平成24年度の決算報告書の内容等の概要説明を受けました。

続いて、観光・商工課観光企画担当より平成24年・25年度の主な施設改修及び施設修繕の状況の説明があり、協定により100万円を越える修繕は北杜市が行い、100万円未満の修繕は、スパティオ小淵沢が負担するとのことでした。また、この施設は、設立当時より出資法人である株式会社スパティオ小淵沢へ管理を委託した経過があり、指定管理者制度が導入されてからは、非公募により継続して、当社に効率的な管理運営をお願いしているとの説明でありました。

説明に対する委員からの質問に対する答弁によると、指定管理者の導入を公募ではなく、非公募で行った理由は、第三セクターで地元企業でもあることから優先させている。とのことでありました。従業員も地元優先で採用している。との回答がありました。

この宿泊施設以外の施設でも指定管理者制度を導入していると思うが、やはり公募をしていないのか。との質疑に、北杜市内にある他の10カ所の温泉施設はすべて公募をしている。スパティオ小淵沢だけが非公募である。との回答がありました。理由としては、赤字が出れば管理料を支払うことが果たして適正であるのか。また、民間だから経営ノウハウで利益を上げろということは難しい。従業員も、正社員は3人だけであり、その他は契約社員で毎年、契約を更新して採用している。フルタイムのパートでも平均で月額約13万円から14万円、契約社員は約17万円から18万円、若手従業員が少ない状況である。地域に根差した指定管理者であるとの説明でした。

その他、決算書での運営・経営面について数多くの質疑がありましたが、それぞれ包み隠さず丁寧な答弁と説明をいただき感服いたしました。

なお、施設の見学では、広いスペースの宴会場の床が、表はカーペット、裏が畳と、ひっくり返すことにより和室と洋室の両方に利用できる部屋になっていました。和室と洋室の使用の割合はどうか。との質疑には、過去の宴会は畳が多かったが、現在はテーブル、椅子の利用が約80%である。との回答であり、川根温泉の宿泊施設の補正

予算での検討においても、大変参考になる興味のある説明でありました。

ホテルの稼働率が悪いが、道の駅の売り上げが大変大きく、地場産品を求める御客さんでごった返していたのが印象的でした。

また、運営・経営面での質疑では、厳しい経営であることが覗われました。

ホテルの運営では、近隣の観光資源や、類似施設の影響を大きく受けることになり、利用率向上には施設独自に様々な取り組みが求められると説明がありました。同施設では、前出した道の駅が大きく施設運営に貢献していることが覗えました。

スパティオ小淵沢の視察を終え、午後からは、北杜サイト太陽光発電所を調査いたしました。

太陽電池には、使用材料や製造方法によって様々な種類があり、それぞれ太陽エネルギーを電気エネルギーに変換する効率、温度や光の波長の違いにより出力特性、価格、パネルサイズなどが異なる。北杜サイトでは、国内外9カ国から27種類の先進的な太陽電池を導入し、発電特性を評価したことから、その太陽電池モジュールを間近に見学し、説明を受けました。

また、15度、30度、45度といった傾斜角度の違いによる発電電力量への影響を検証していました。発電効率が最も良い角度は30度であり、南向きの一般家庭の屋根に設置する場合も平均的に28度から30度に設置すべきであるとの説明がありました。

次に、角度は一定であるが、360度回転可能な太陽光発電システムに、あらかじめ太陽の位置・軌道をプログラムしておき、約5分に一度、自動修正し、常に太陽を追いかける追尾型の太陽光発電システムの説明がありました。

説明を受けた後、委員から、効率の良い機器や、導入に当たってのコスト面など、様々な質問があり説明を受けました。

立地条件や設置コスト・規模・耐用年数と償却期間などでは採用するメーカーを選定する必要があるなどの説明を受けました。

北杜市では、市立小・中学校での太陽光発電や市営の水力発電所など、小水力発電を合わせると、約7000メガワットの発電能力があり、北杜市の2万世帯のうち10分の1をまかなうだけの発電能力があるとの説明がありました。

北杜市住宅用太陽光発電設置費補助金は、当初予算額は2200万円で、10キロワット未満の太陽光発電システムに対し、最大20万円の補助金を交付しており、本年度は約150件の申請があるとのことでした。

国・県の補助金の併用も可能であることから、約3分の1の補助になるとの説明でした。

その他にも、熱心に多くの質疑がありましたが、報告は省略いたします。

以上が経済建設生活常任委員会の所管事務調査の報告であります。